

地震・防災研究の地域密着型アウトリーチ活動

Public Earthquake Disaster Education and Outreach for Disaster Reduction

林 能成 [1]; 木村 玲欧 [1]

Yoshinari Hayashi[1]; Reo Kimura[1]

[1] 名大・災害対策室

[1] Disaster Management Office, Nagoya Univ.

<http://dmo.seis.nagoya-u.ac.jp/>

地震をはじめとした自然災害に関する知識は、災害が多発する日本においては全国民にとって必要不可欠なものである。そして災害に関する研究も国家的な重要課題として多くの研究機関で精力的に進められている。しかしながら、最新の研究成果はおろか、古典的な地震や防災の知識も広く国民レベルで共有されているとは言いがたい。この分野においても有効的なアウトリーチおよび教育手法の開発と展開が望まれている。

そのような背景をうけ、多くの防災関連研究機関でもアウトリーチ活動に力を入れている。しかしながら地震や防災といった分野にもともと興味を持つユーザーへの情報提供はそれなりに効果をあげているが、その他大多数をしめるあまり興味のない人をひきつけることには成功していない。純粋サイエンスの分野であれば興味のある人への詳細な情報提供とそれを受けるコアな人たちの育成が重要であろう。その人たちが様々なレベルで研究活動をサポートし、研究者との双方向コミュニケーションを図ることができれば、研究者コミュニティにとっても有意義なパートナーシップが構築できる。しかし災害関連分野では、国民誰もが被災者になる可能性を持っていることから、防災知識の普及は知的好奇心を満たすだけでなく実用的な意味を持っている。そのため、興味のある人が更に学ぶことをサポートするばかりでなく、興味のない人への知識普及のための工夫が欠かせない。

災害に関する報道や情報は大きな災害の発生直後には世の中に氾濫し、その瞬間は多くの人が災害とその科学について強い興味を持つ。それが持続しないことと、自分自身と災害の関係を想像しにくいことが、災害分野のアウトリーチ活動を展開する上で最大の課題である。そこで、多くの人に災害を身近に感じてもらうことを目的として、我々は地域の歴史災害をきっかけとして興味をもってもらえるような地震および防災研究のアウトリーチ活動を進めている。具体的には、1944年(昭和19年)12月7日に発生した東南海地震、1945年(昭和20年)1月13日に発生した三河地震という2つの地震災害を例としてをこのようなことを意識した調査を進めながら、様々な活動を展開している。

この2地震は地元・愛知県に大きな被害を発生させたことに加え、1)第二次世界大戦末期に発生したためその災害の記録がほとんど残っておらず地元でも知らない人が多い、2)プレート境界型地震の巨大地震の約1ヶ月後にいわゆる直下型地震が発生しており、地震発生の様相が地震の活動期に入ったといわれる現在の西南日本における先行事例として適切である、3)阪神・淡路大震災以外の地震災害で生活再建過程に焦点をあてた記録がほとんどなく、阪神・淡路大震災と比較・対照させるための甚大な被害を発生させた地震の事例として適切である、4)被災者の年齢を考慮すると早急に調査しなければ記録不可能になる危険性の高い事例である。という特徴を持っている。

実際の調査からアウトリーチ活動への一連の展開は以下のような流れですすめている。

- 1) 地域の歴史災害の具体的事例を教材化するため地元自治体などとも協力して被災者へのインタビュー調査を推進。
- 2) 調査結果をわかりやすく伝えるために災害をビジュアル化する手法を開発。
- 3) 過去の災害から得られた教訓をそのまま提示するだけでなく、理系・文系両分野の研究者が最近の災害と比較して提示。

4) 上記により得られた成果を一般書籍として地元で圧倒的なシェアを持つ新聞社の出版部門から出版。これにより多くの人が情報にアクセスできるようになるとともに、図書館での保存も容易となり将来にわたって活用されることが期待できる。

5) 地元自治体などと協力して様々な人を対象とした講演会やパネル展示などを実施。この際に1)でインタビューをした被災者に直接語ってもらう講演会や、2)で作成した絵画パネルを用いた教育委員会主催の文化展も実施しており、通常の地域の防災リーダーなどを対象とした防災講演会とは異なった層を対象とした企画が実現している。

このような活動の展開により、これまでの防災講演会の主たる出席層とな異なる人たちが多数出席する講演会の開催など多くの成果があった。また本の出版により、講演会などに足を運ぶ時間の余裕がない方からも多くの反応が得られ、これまでとは異なる層への展開という面で効果があった。更に通常の防災講演会を開催した場合でも、地域の災害ということで大変活発な質疑応答がなされることも多い。このように地域の災害をきっかけとした地震・災害研究のアウトリーチ活動は、様々な層の人に興味をもってもらう上で大変効果的である。